

3

Once upon a time, there was an old woman living in a rural town in Italy.

She had a hen.

The hen was so skinny because the old woman was too poor to feed her hen enough.

Gradually, it became very difficult for a hungry hen to lay eggs.

One spring day.

The hen headed for a mountain with short, steady steps.



When the hen reached the bottom of the mountain, a fox suddenly appeared.

"Wow, this hen looks absolutely delicious. Even though it's a little too thin but I don't care about it."

"Oh, please have a closer look at my body. Probably my thin body will not be enough to satisfy your hunger. Now I go up into the mountain and have lots of foods. I will get myself plumped and then come back. So please let me go now."

"I see... Do you promise me to return?"

"Of course, I promise."

The fox believed the hen and let her go.



むかし、イタリアの とある いなかの まちに、
ひとりの おばあさんが すんでいました。

おばあさんは、めんどりを いちわ かっていました。

おばあさんの いえは まずしかったので、
めんどりは あまり まんぞくに
えさを あたえてもらえず、とても やせていました。
おなかを すかせた めんどりは、
しだいに たまごを うむことも
できなくなってきました。

そこで めんどりは、やまへ いって
えさを さがすことに しました

ある はるのひ。

めんどりは やまへ むかって、
とことこと あるいていきました。



めんどりが やまの ふもとまで きたとき、
とつぜん くさむらから、
いっぴきの きつねが あらわれました。

「ほほう、こいつは うまそうな めんどりだ。
ちょっと やせているが、まあ がまんしよう」
「ああ、きつねさん。わたしの からだを みてください。
こんなに やせていては、あなたの おなかの たしには
なりませんよ。これから やまに はいって、
えさを たくさん たべて、
まるまるふとって かえって きますから、
どうか こんかいは みのがしてください」
「なるほど・・・ちゃんと かえって くるんだろうな」
「もちろんです。やくそくします」

きつねは その ことばを しんじて、
めんどりを みのがしてやることに しました。

